

ふれあい

2024

6

No.447

牛久愛和総合病院 広報誌



腎臓内科新任のご挨拶

腎臓内科 医長 石塚 竜太郎

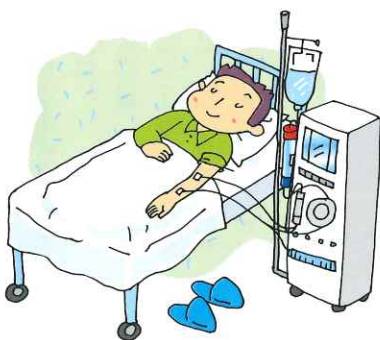


2024年度より当院腎臓内科へ赴任させていただきます。石塚竜太郎と申します。私はこれまで泌尿器科として診療にあたってきましたので、腎臓内科としてはかけだしとなります。なので、腎臓内科に関してここで語ることがまだまだできません。そんな私がなぜ腎臓内科として当院に赴任させていたのか、不思議に思われることと思います。そこで、私の自己紹介とここに至った経緯についてお話しさせていただきます。

私は茨城県坂東市の出身で2004年に筑波大学医学専門学群を卒業し、筑波大学附属病院での初期研修後、筑波大学腎臓器外科に入局しました。それからは腎臓器外科医として県内の総合病院で主に前立腺癌や膀胱癌、腎臓癌などの悪性疾患の手術や抗がん剤治療、前立腺肥大症や尿路結石などの良性疾患の治療を行ってきました。透析診療に関しては、筑波大学の関連施設では基本的に腎臓内科で担っており、携わる機会がありませんでした。しかし、私の父も泌尿器科医なので、透析診療にも携わっており、坂東市に泌尿器科、透析の医院を開業しております。そのため、透析診療も行えるようになりたいと以前より考えていたところ、ご縁があり牛久愛和総合病院に入職させていただけることとなりました。

現在約1か月経ちました。今まで医局の中で異動していたので、そこから外れての異動、しかも科も変わるということでは不安だらけの4月でしたが、他科の先生方やコメディカルの方など皆様にやさしくしていただき、すぐにその不安もなくなりました。また、診療としては当院には他院からシャントの閉塞や感染、作成困難の方が次々に紹介され、PTA（経皮的血管拡張術）や人工血管などの手術が頻繁に行われています。これは他院にはない当院の特色だと思いますし、その中で様々な経験ができることに感謝しております。

腎臓内科の一員として、少しでも力になれるよう努力するとともに、今まで泌尿器科で培った知識や技術なども含めて、当院の医療に貢献できよう頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いたします。



診療科の紹介

排尿ケアチームについて

泌尿器科 医長 俵 聡



排尿ケアチームとは、排尿への「包括的ケア」を計画し主治医、病棟スタッフとともに実践・評価していくチームです。包括的ケアとは、様々な医療スタッフによる多職種連携を行うことです。

下部尿路機能障害の症状(重度の頻尿、尿失禁、排尿困難など)を有する方、②カテーテルを抜去した後に症状が生ずると見込まれる方です。

排尿ケアの目的は尿道カテーテルを抜去することです。

排尿はどのようにおこなっているでしょうか。尿意を覚悟しトイレへいき、服をぬぎ、便器へすわる、そして排尿しました服をきる。この一連の動作のどこかに不具合がある患者様へ医師、看護師、理学療法士、作業療法士が違った目線からアプローチしていくわけですが、これらが連携をとって排尿を自立へ導くのが本チームの最大の強みだと理解しています。

対象となる患者様は、入院後に尿道カテーテルを留置した方ですが、その中でも以下の二つの場合です。①カテーテルを抜去した後に

下部尿路機能障害の症状(重度の頻尿、尿失禁、排尿困難など)を有する方、②カテーテルを抜去した後に症状が生ずると見込まれる方です。排尿ケアの目的は尿道カテーテルを抜去することですが、すべてのカテーテルから離脱するというところはありません。自己導尿という言葉を知っている方もいるかと思えます。医療スタッフがおこなう導尿を自分で習得し生活していくことも立派な排尿自立です。いろいろな理由で自己導尿が難しい方へは尿路変向(膀胱瘻など)といった排尿方法もあります。

個人個人の様々な形の排尿自立があるはずで、それを見つけられるよう本チームは陰ながら支援していく所存です。排尿ケアチームとは、特に珍しいものではありません。2016年度の診療報酬改定後に、全国各病院でチームが結成されつつあります。チームによる包括的ケアの実践により尿道カテーテルの抜去率の向上、様々な形での排尿自立の獲得、ねたきりの防止、尿路感染症の予防等が可能となり、文献では健康寿命の延長も期待されています。当院では院長をはじめ、看護部、リハビリテーション部のご理解ご協力のもと、泌尿器医、看護師、理学療法士でのチームを結成することができました。本原稿依頼をいただいた時点では体制づくり中であり、明確な活動時期についてはお示しできませんが今年度中に院内の皆様へ勉強会をさせていただきます、活動を開始する予定です。何卒宜しくお願い致します。

あつかれさま



5/31付退職 循環器科部長 飯野均

前任の東京医科大学から移って約19年間、大変お世話になりました。良き同僚やパラメディカル等の支えにより、気分良く仕事を続けることができました。全国的にも茨城県の病院勤務医数はかなり少なく、どの施設も多忙をきわめている状態にあります。そのため、もうしばらくは循環器科チームの一員として地域医療に貢献予定でしたが、この度、諸般の事情により退職する運びとなりました。

今後は、近隣のクリニックにて引き続き地域の患者さん達の健康をサポートしていきたいと考えております。医師一人の施設は初めての経験であり、多少戸惑いもありますが、長年培ってきた人間力で乗り切っていく所存です。長年通っていた患者さん達には転院等ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解いただけますと幸いです。これからも地域の方々の健康長寿を心より願っております。本当にありがとうございました。

入職者

5月1日付

■医事情報部

外来クラーク 河部 裕子

一日でも早く職場に馴染み、皆さんのお役に立てるよう精進してまいります。

5月16日付

■看護部

看護助手 工藤 光留

不慣れな事ばかりですが、一日でも早く地域医療の力になれるよう努めてまいります。

■総務課

送迎運転手 下村 俊之

私は、消防という職業が長く、交通事故等を見てきたので、常に安全運転を心掛けています。

送迎運転手 池田 恒昭

ゴルフと車を運転してぶらぶら走りまわっているのが好きな、62歳です。

5月22日付

■看護部

看護助手 ホアン ティ ガン

ベトナムから来ました。高齢者さんを支える仕事をしたいです。

看護助手 デイン ティ クイン ジャン

私は実習生です。ベトナムから来ました。日本の食べ物が好きです。

春秋園だより

新年度を迎え、早3カ月。初夏の暑さに加え、湿度の高い気候にも見舞われてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、通所リハビリでの活動の様子を紹介していきます。通所リハビリでは、午後の時間に運動レクリエーションと手作業レクリエーションの2種類を実施しています。



運動レクリエーションでは、職員が自作した道具を用いて、ボウリングや的当て等の個人で得点を競うゲームや風船バレー・テール・ホッケー等のチームで協力するゲームを行い、和気あいあいとした雰囲気です。盛り上がります。身体を動かすレクリエーション

だけではなく、クイズやプリントを用いた脳トレを行い、周囲の利用者様と話し合いながら問題に取り組みまれています。



手作業レクリエーションでは、季節に沿った作品づくりをしています。一人ひとりの作品もありますが、協力して大きな作品も手掛けています。今年度では、桜や鯉のぼり、あじさいの貼り絵を作成しました。完成した作品を飾り、多くの利用者様よりお褒めの言葉を頂きました。

また、この他に月2回程、歌や演奏のボランティアさんに来ていただき楽しんでいます。今後さまざまなレクリエーションを用意し利用者様に楽しんで頂けるよう、職員一同力を合わせてまいります。

(通所リハビリ職員一同)

部 署 紹 介

患者サービス室

北里 徹則
酒井 吉孝

患者サービス室は、簡単に言いますと、患者様やご家族様と病院をつなぐ橋渡し役です。組織内においては『医療メディアーター』という立場に位置しております。

現在当室は2名で構成されております。主な対応内容といたしましては、患者様やご家族様からのご相談やご意見、時には貴重なお叱りのお言葉をお受けする等極めて多岐にわたります。医療に関して専門分野でも専門家でもありませんが、患者様やご家族様に、診察や治療に対するご不安や疑問・疑問点を少しでも払拭して頂き、安心して治療等に専念して頂きたいと、私たちは常日頃から思っております。

また、皆様の貴重なお話を傾聴させて頂き咀嚼して、いかにしたら共に良くなるかを考えて進めていく部署でもあります。

患者サービス室の対応を通し、「愛和に来て良かった」と笑顔でご帰宅される事が、私たちのやりがいでもあります。

どのような細かいことでも結構です。お気軽にお声がけ下さいませ。

Dr 趣味リレー

リウマチ・膠原病内科 福栄 亮介

ハーレーダビッドソンのカッコよさに強い憧れを持っていた私は、現在は既に生産終了となったDynaファミリーのFXDCというモデルに一目惚れし、都内の正規ディーラーを探しまくって大学卒業前にローンで購入しました。こまめに洗車などして大切に乗り回して

が、初期研修が始まって半年経たない頃に右直事故で右腓骨骨折の重傷を負って以来、完全にバイクを降りてしまいました。バイクはパーツ交換などをして動く程度に修理しましたが、雨風に晒され洗車や整備もされなくなったバイクは徐々に錆び付き、バッテリーは上がり、みる影も無くなってしまいました。

ところがそれから8年、ある出来事によりバイクをととても大切にしたいくなりました。趣味とはそういうものかもしれません。数日かけて専用の錆び取りクリーナーで洗浄、メッキコーティングを施し、光沢を取り戻した愛車に二度とあなたを傷つけないと固く誓いました。常磐道を片道50km走る牛久通勤はちょっとしたツーリングです。

ただし、私にとってハーレーはただの移動手段ではありません。今では帰宅時は今日も生きて帰ってこられたと生に強く感謝すらさせ、それが患者さんやコメディカルスタッフに誠実でいなければと思わせるのです。日々の傲慢さは運転態度にも表れ、致命的事故を惹起する悪癖であると考えるからです。

《出来事ピックアップ》

こどもの日集会

4/27

4月27日(土)、こどもの日集会で小運動会を行いました。

年長児が自分で作った鯉のぼりを掲げて入場しました。皆から「ワー!!」と歓声が上がると、とても誇らしげな顔をしていました。学童が「選手宣誓したい!!」と元気な声で宣誓し、小運動会の始まりです。

かけっこでは、名前を呼ばれると元気に返事をしてスタートし、ゴールするとすぐに「もつと走りたーい!!」と



何度も走っていました。玉入れでは、小さい子たちも保育士に抱っこしてもらって玉を入れ、楽しく参加できました。最後は鯉のぼりくぐりです。何度もくぐり、出てくる子ども達の顔は満面の笑顔でした。楽しい集会でした。

(保育課係長・榎原)

編集だより

今年も衣更えの季節を迎え、初夏到来となりました。夏休みには家族や友人と旅行など計画して楽しみにしていることでしょうか。季節の変わり目は体調を崩しやすい時期です。梅雨が明けるまで、お体ご自愛ください。(S・M)

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

内科(禁煙外来) 整形外科(股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節) 小児科(小児循環器、小児心理、小児免疫) 皮膚科(レーザー外来) 外科(下肢静脈瘤外来) ストーマ外来 そけいヘルニア専門外来 透析外来 内視鏡検査 検診検査(乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院 医療法人社団 常仁会

救急 24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地 Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031 ホームページ http://www.jojinkai.com

《関連施設》

- 総合健診センター Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791
人工透析センター
読影センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

